

巻 頭 言

政治や経済という巨大なシステムがますます不安定になっていくなか、「地域」の役割を実践的・理論的に高めていくことがかつてなく重大となっています。国際的・国内的なレベルでの政治・経済が大きく動揺しても、自立的な地域の社会経済構造を持続させることができれば、住民の暮らしは維持されることになります。グローバルな力が国の政治や経済を絶えず不安定にする時代においては、こうした自立的な地域を構築していくことが今後の時代の目指すべき方向性になります。

このような課題意識の下、地域情報研究所ではさまざまな角度から地域研究に取り組んできました。今号に掲載されている論文等においても、都市計画、市民参加、環境政策、経済政策、住宅政策、観光政策、政治・経済・情報理論など、地域の課題にアプローチするための不可欠な視角からの研究成果が得られています。これらの分野は各専門領域における研究成果であるだけでなく、それぞれが地域問題という共通の意識の下に取り組まれたものであることが、今号の各論文等からも感受されることと想います。

ここ数年の地域情報研究所では、自治体との連携や市民との共創を強く推進してきました。その一つが2019年5月19日(日)のいばらき×立命館DAYでの地域情報研究所出展企画「ワールドカフェを体験しよう」です。このとき、ワールドカフェ方式によって、大学の教職員・学生、市民、自治体職員らが茨木市の今後の課題とその解決に向けた対応策についてフランクに語り合い、異なる意見を尊重しあいつつ合意へ向けた努力を共に推し進めていくという民主主義の実践を分かち合いました。その記録についても、本号において掲載させていただいています。

地域情報研究所は地域を軸とした理論的・実践的な研究活動を通じて、いま喫緊の課題となっている自立的な地域システムをつくりだしていくことを大きな目標としています。そのためには、多くの人々の知識・経験を通じた私たち自身の自己陶冶が不可欠です。本号に掲載された論文等にかぎらず、本研究所の活動に対する忌憚のない質問・コメント等がそのために大きく貢献してくれることになります。

今後も皆さまからの様々なご協力を心からお願いする次第です。

立命館大学地域情報研究所

所長 森 裕之

2020年3月